
星の見える店

さんび

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の見える店

【Nコード】

N1644B

【作者名】

さんび

【あらすじ】

「いらっしやいませ。ここは私の言の葉をお客さまにお届けする店。さて、今日はどのようなお話をしましょうか？」

（前書き）

私が実際に体験した話と考えた話を混ぜてみました。

「いらつしやいませ。おや、また来て下さったのですか？有難うございます。さて、今日はどの様な話をお聞きになりますか？……おや、またお任せですか？いえ、そういった方は珍しいもので。では私の思いを言の葉に乗せて。貴方の心に響きますように……」

―――― 午後の授業が終わって、さあ帰ろうと駐輪場に行ったら、自転車の鍵が無い事に気付いた。どこを探しても見つからず、仕方なく、後ろタイヤ部分を持ち上げて帰る事にした。学校から私の家までは、そんなに遠いわけじゃない。歩いても20分も掛からない。

それでも、結構な重さがある自転車を持ち上げて、前タイヤが変な方向に曲がらない様に押すのには骨が折れた。

私の通っている学校は田舎で、帰り道にはたんぼが並んでいる。どれくらい歩いただろう。やっと学校と家の中間辺りにまで来た。でもそれは、まだ中間辺りだという事でもある。無駄だと分かったうえで、私はもう一度鍵を探した。制服のポケット、スカートのポケット、ブラウスのポケット、ジャージのポケット、鞆の中、筆箱の中。無かった。はあ、と一つ大きな溜息を付いて、結局は押すしか無いと諦めかけていた。 「よ、」

その時だった。後ろから自転車の走る音。振り替えると隣のクラスの男子の姿。

「お前何してんの？」

人と仲良くなるのが苦手で男子ともあまり話さない私だけど、小学校からずっと一緒だったコイツとは普通に話せる。自転車を押す手を一旦止めて、コイツが来るのを待つ。 「鍵無くなっ

ちやったの」

私の方が身長が低いので、隣に来たコイツを見上げるように言うのと、 「は？馬鹿じゃん？」

案の定、馬鹿にされて笑われた。
だよ」

「どーせ馬鹿

ふん、とコイツから視線を逸らしてまた後ろタイヤを持ち上げる。
コイツは馬鹿にしながら、後ろから付いてきた。

しばらく歩いて、もうタイヤを持ち上げる
手に力が入らなくなってきた。 「疲れた……」

前のタイヤがふらふらしている。ぐらつと、自転車が大きく傾いた。
「うわっ！」

私が声をあげたのには二つ理由がある。一つは、いきなり自転車が
傾いたから。もう一つは、コイツがそれを、支えてくれたから。

「危ねえ……。お前たんば落ちたら泥だらけだぞ？」

馬鹿にするような笑いと、近くに倒れたコイツの自転車。コイツは、
自分の自転車を放り出して私のを支えてくれた。

てかお前見てて危なっかしい。持ってやるよ。俺の自転車押してけ」
「あ……うん」

それだけ言うと、コイツは私の自転車を持って先に行ってしまった。
私は傍に倒れているコイツの自転車を持って、前に行く後ろ姿を追
い掛けた。

「……………」 「如何でしたで
しょうか？うら若い中学生の不器用な恋。いいですねえ、若いです
ねえ。その後この男の子は家まで持っていつてくれたみたいですよ
……え？その後どうなったか？そんな野暮なこと聞いたら駄目です
よ、お客さん。おや、もう行きますか？では、お気を付けて」

「……………」 「テンチョーテンチョー」

「おや、どうしたんですか？ルートさん」 「今の話って

さあ、テンチョーの昔の話でしょ？」

「おや。分かってしまいましたか？」

「分かるよー。だってテンチョー……」

カランコロン 「おや、お客さまですね。ルートさん、

戻って下さいね」

「はあい」

「いらつしや

いませ。この店は初めてですか？ここは星の見える店。私の言の葉をお客さまにお届け致します。では、今日はどのようなお話をしましょうか？」

END

（後書き）

ここまで読んでくださりありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1644b/>

星の見える店

2010年10月19日13時30分発行